

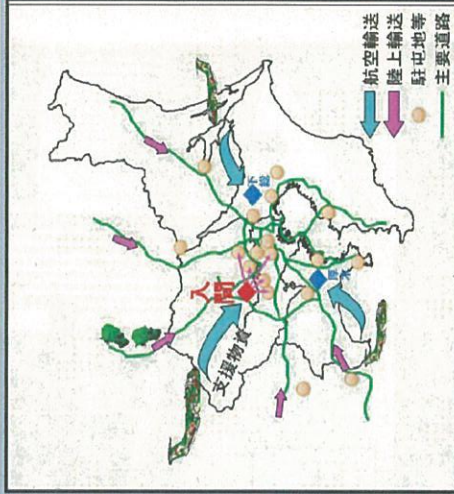
# 災害対処拠点について

## 目的

1 被害状況が不明な状態において、遠方からの増援部隊を集結させる場所として使用。  
大規模な部隊を迅速に集結させるため、利用できることが予め確定していることが必要。  
集結後は、部隊の指揮所等として使用。

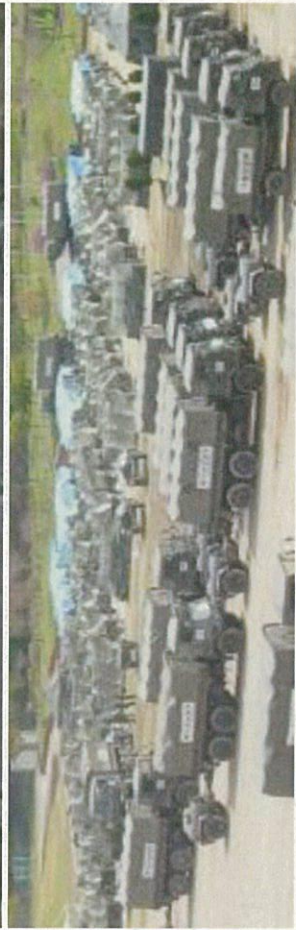
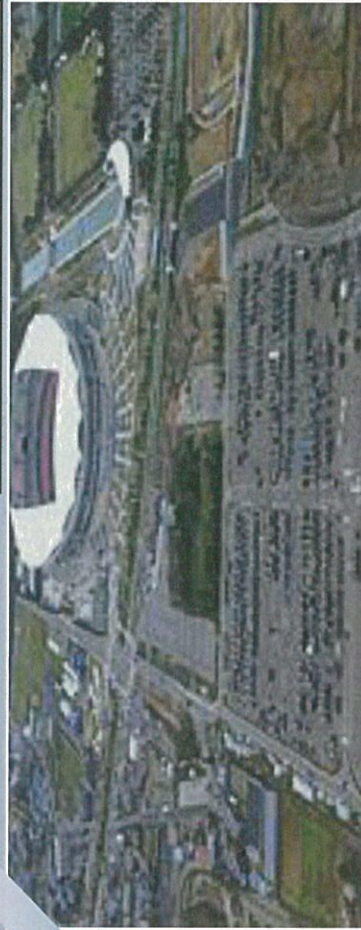
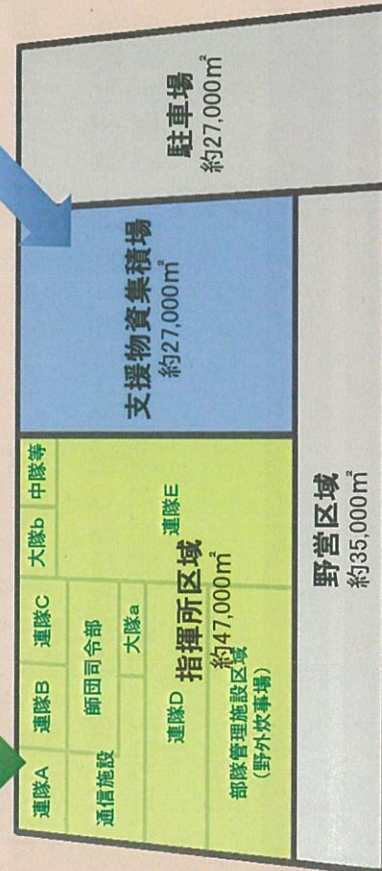


2 首都圏で活動する部隊の救援活動等に必要な装備品及び被災者の支援物資等のために必要な救援物資等を各地から集積し、輸送するための活動拠点として使用。



## レイアウト(1個師団の展開例)

人員：6,000～8,000名  
所要面積：約14万㎡





# 自衛隊病院について

## 概要

### 1 目的

- 平素は、自衛隊員及びその家族等の診療、医療従事者の養成、医療従事者の技能の維持・向上、衛生に関する研究を実施。
- 各種事態への対処時においては、自衛隊員の後送病院として機能。

### 2 現状・課題（自衛隊病院の拠点化・高機能化）

- 全国に中小の病院が分散配置。
  - 施設・医療器材の老朽化が進んでおり、診療への影響が生起。
  - 医療技術者の分散、医官の退職による低充足。
  - 診療技術、専門性の向上がやや困難。
- これらの課題を克服するため、現在の病院を集約化し、人的・物的資源の集中を図ることにより、効率的かつ質の高い病院を整備。

## 現在の状況

### 岐阜病院

診療科目（7科）：内科、外科、整形外科等  
病床数：100床  
発足：昭和37年



### 那覇病院

診療科目（7科）：内科、外科、整形外科等  
病床数：50床  
発足：昭和54年



### 三沢病院

診療科目（6科）：内科、外科、整形外科等  
病床数：50床  
発足：平成元年

